

中高生とともに差別と闘う

「住所 本籍地 ※必ず記入」

吉成タダシ



「住所 本籍地 ※必ず記入」

「せんせー ちよつと相談があるんですが」
 さる四月のことでした。

高専生のコウキから届いたLINE（無料通信アプリ）でした。アルバイトをするというので、ある事業所に出向いたところ、「身上書」なるものを渡され、記入箇所についての説明を受けたのですが、その中に、冒頭のような注釈が朱書きされていたというのです。

「ぬぬぬーっ！ なんだこれは！ よくぞ言ってきた！」

心の中で拍手。いや待て、喜んでいる場合ではない。

「これは問題！ いや、大問題ではないか！」

意識過敏になっている私が単なる世間知らずだけで、世の中の現実としてはこれが常識なのか？ 「統一応募用紙」とか、「就職差別につながる十四項目」とかいうものの、それは夢物語の世界の話で、現実はこちら前なのか？ 労働局やハローワークからの指導は、建前としては「ふんふん」と聞かぬが、現実はこちら前なのか？

知性と感性と：

それにしても、たかがアルバイト（「たかが」ではありませんが）で、なぜ本籍地を訊く必要があるのか？ 誰か知っていたら教えてほしい。訊いて何のメリットがあるのか？ 何に使おうというのか？

か？ 不信感を募らせる要素になるに過ぎないではないか！ 事業所の意図と真意を詰問したい衝動に駆られてしまいました。

しかし、「偉そうなことを言うお前はどうか？ 十八・九の年ごろで、見抜けるだけの眼を持っていたのか？」と訊かれると、「はー！ ごめんさい！」と平身低頭せざるを得ません。当時の私なら、住所と本籍地の違いもよく分からず、「何の違いがあるの？ ちよつと違うだけじゃないの？」とそれくらい書いたって……と思つたと思います。しかし、部落問題を知り、深く学び、本籍地を安易に明らかにさせられることで、どれだけの人が嫌な思いをし、傷つき、職も結婚も、愛する人との恋すら奪われてきたか。身元を暴き、差別の対象とみなす差別意識の醜さに、そして、自身の無知が他人の人權を侵していたかもしれないというところに、少しづつ気づけていたように思います。

そう思うと、高専生のコウキ、立派です。たった一年間のつき合いでしたが、それは、人権問題・差別問題について共に学び合いました。でも、その内容がどこまで理解され、残っているのかと問われると、私自身、まったくもって自信がありません。それでも連絡してきたのは、よほど具体的な何かが

彼の中に残り続けてきたのか、それとも、具体的なことは消えてしまったけれど、「人として大切にしなければ！」という感性だけはしっかりと残っていて、そこにしっかりとヒットしたのか。

いじめや差別に土日はない

たかがアルバイトの身上書……といえども（それも）でも、知った以上、放置しておくわけにはいきません。人権啓発がすみずみにまで行きわたつていかないうち、これからの同じような事例が起こっていく可能性は十分にあるわけですから。

その昔、ある会合で、協議が停滞してつちもさつちもいかなく、敬愛する活動家の方々が、県の担当部局のお歴々を前にして、こう言い放つたことがありました。

「あなた方には土日があるんですよ。けど差別には土日はないんですよ。休みだからといって、差別は待ってられないんです。どうかしてくださいよ！」

「その通り！」と、同席していた私は心の中で思わず膝を叩いていました。大切なことを見失い、優先順位を見誤るといふこと、お役所仕事の中ではよくある話です。けど、そんなのが垣間見えたりすると、何とも嫌な気分になるものです。

今後、高校や教育委員会、自治

体、ハローワークや共闘する機関を通じて、この事業所に改善を迫っていくと思えます。

そして何より、次代を担う若者が、彼のような人権感覚をもてるように、学びの環境を広げていきたいと思えます。そしてそんな若者が、これからの社会を変えていく原動力になってくれればと願わずにはいられません。

とはいえ、「採用のためには……」と、書いて出すことが半ば強制されるこのご時世。若者たちの置かれている状況も、決して楽ではないようです。

前後してしまい申し訳ありません。今回からこのコーナーを担当させていただくことになりました、吉成タダシです。私は難しいことは書けません。私が書けるのは、中高生と出会い、共に過ごしてきた出来事くらいです。読者のみなさんには、少し歯ごたえのないコラムになってしまいかもしれませんが、お許しください。

次号からはしばらく、高専生のコウキがいたクラスと過ごした二年間について、いくつか紹介させていただきます。中高生や若者が過ごしている日常の現実、それでも前向きに生きていくこととする可能性の素晴らしさを、少しでもお伝えできればと思えます。どうぞ、よろしくお願ひします。

（次回「この一年、終わった?!」）